

大子町における小規模事業者の

景況調査報告

平成 29 年 1 月～

令和 3 年 12 月

大子町商工会

目的：

大子町の小規模企業者の景況感を継続して調査することで、大子町における小規模企業者全体で景況感を共有することを目的とする。

方法：

製造業・建設業、小売・卸売業、サービス業（飲食店等を含む）からサンプルの小規模企業者を約 30 社選び、四半期ごとに景況感の聞き取り調査を行う。聞き取り方法は、直接面接もしくは電話にて行う。

調査期間は平成 29 年 1 月～令和 3 年 12 月までとし、四半期ごとに景況感をまとめ、年 2 回報告する。

対象事業者：

大子町にて事業を行っている小規模事業者

調査項目：

- ① 売上高、販売単価、粗利益、資金繰り、人材確保、景況感について前年度同時期と比較した。
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響が、大子町の中小企業者にどの程度影響したかを調査した。
- ③ 新型コロナウイルス感染症に対する対策や協力金効果の感想などをまとめた。

調査属性

製造業（食品加工業を含む）	6社
建設関連業	6社
小売業（卸売業を含む）	9社
サービス業（飲食、観光含む）	10社

事業者の規模

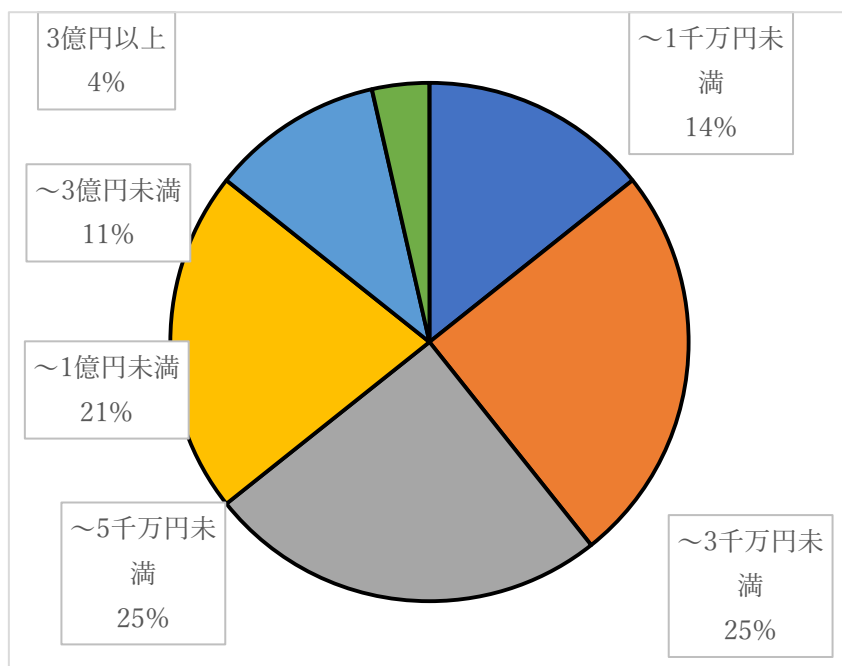


図1 売上規模による事業者の調査割合

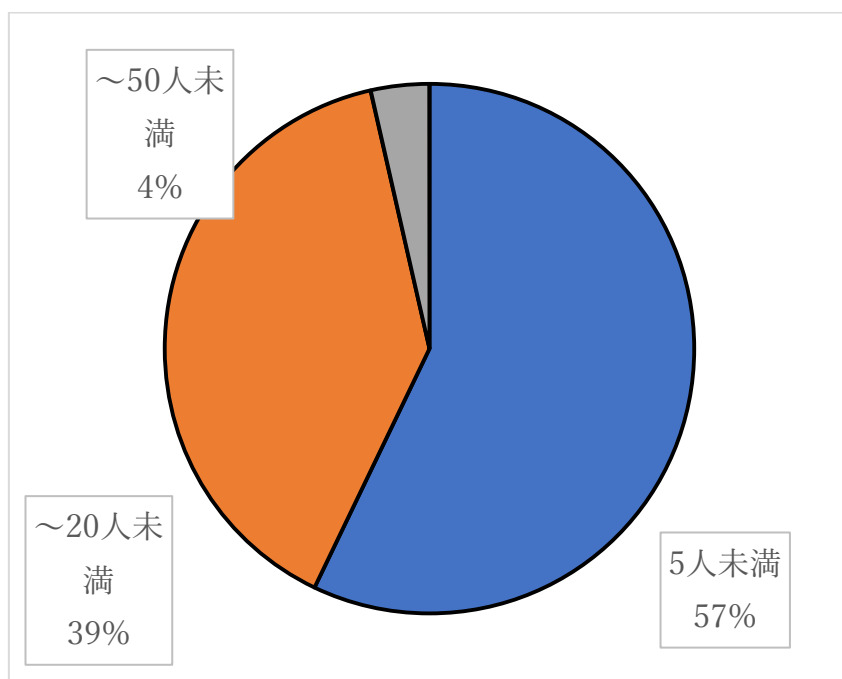


図2 従業員規模による事業者の割合

1. 直近のDIについて

業種別でみると、製造業、建設関連業は回復の兆しが見えていますが、小売業、サービス業の足元は暗いようです。特に小売業のすべての事業者がネガティブな景気観を持っています。後述しますが、サービス業の一部（飲食店）と小売店との大きな違いは、新型コロナウイルス対策としての協力金が補填されたかされないかの違いによるものではないかと推測しています。

表1 令和3年9月～12月間のDI※1

	売上高	販売単価	粗利益	資金繰り	人材確保	景況感
製造業 (食品加工含む)	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	0.0
建設関連業	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	0.0	0.0	▲ 16.7
小売業 (卸売業含む)	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0	▲ 100.0
サービス業 (飲食、観光含む)	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 10.0	▲ 60.0
全業種計	▲ 46.7	▲ 46.7	▲ 46.7	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 50.0

※1 DI (Diffusion Index : 業況判断指数)

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものを%ポイントで表した景気判断指数の一つです。プラスは良くなった。マイナスは悪くなった。と、とらえることができます。

大子町における、業種別、項目別のD Iの推移を以下に示します。

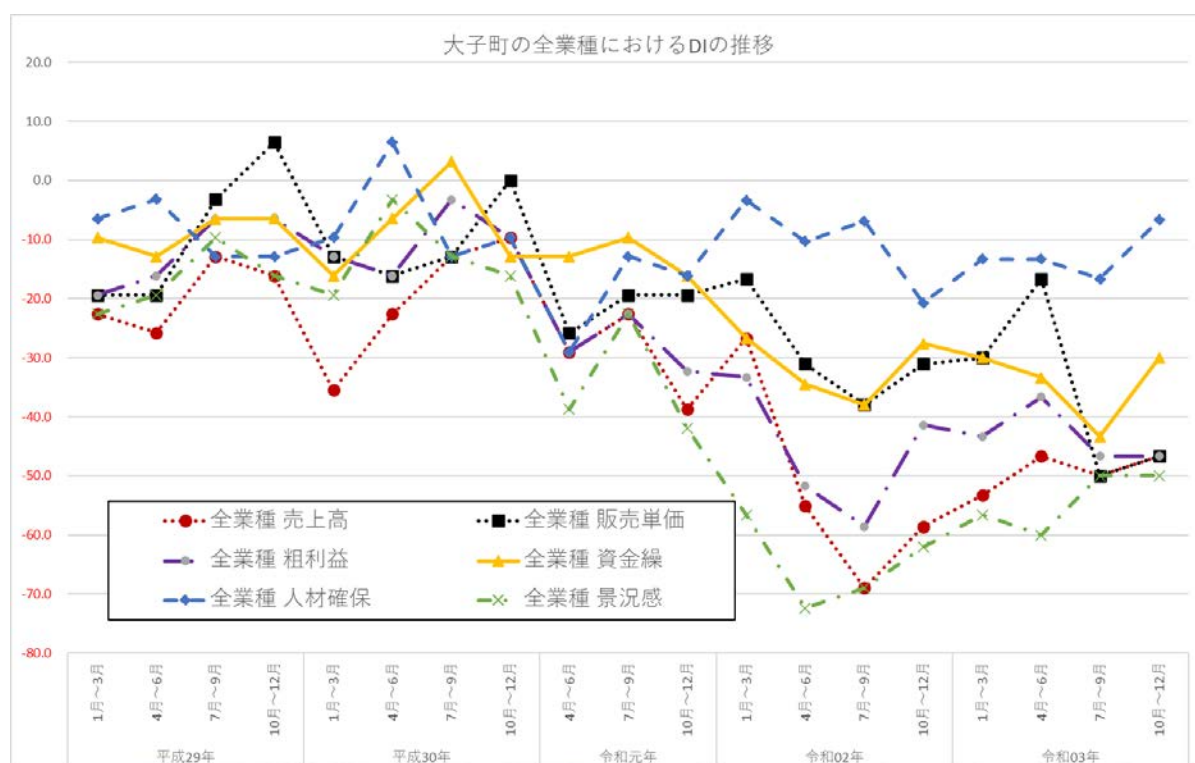


図1 大子町の全業種におけるD Iの推移

図1は、大子町における全業種のD I値の推移を示したものです。前回の報告と比較しても、項目のほとんどに回復傾向がみられます（悪くなっている速度が鈍化したという意味。すべての項目に関して、良くなってきているという割合が増えている）。ただし、販売単価が7月以降急激に低下したことに不安を感じます。後述しますが、単価DIが下がった原因は、小売業の低迷によるものです。特に、図2（売上高DIの推移）をみると、小売業に回復が見られないことがハッキリとわかります。

また、小売業では、売上低下の対策からか（理由は不確実）、図3（販売単価のDIの推移）にあるように販売単価も著しく低下しています。値引き販売を横行しているのではないのでしょうか。コロナ禍で飲食店などが売れない⇒仕入量（消費量）が減る⇒売上が下がる⇒売上向上策として値引きを行っている。という流れを感じてしまいます。

値引きをして販売量の確保を図っている小売業・卸売業の方がいるとすれば値引きはほどほどで中止する方向ではないのでしょうか。当然の結果として、図4（利益DIの推移）のように小売業・卸売業は粗利益が減少し、資金繰り（図5：資金繰りDIの推移）が厳しくなっています。

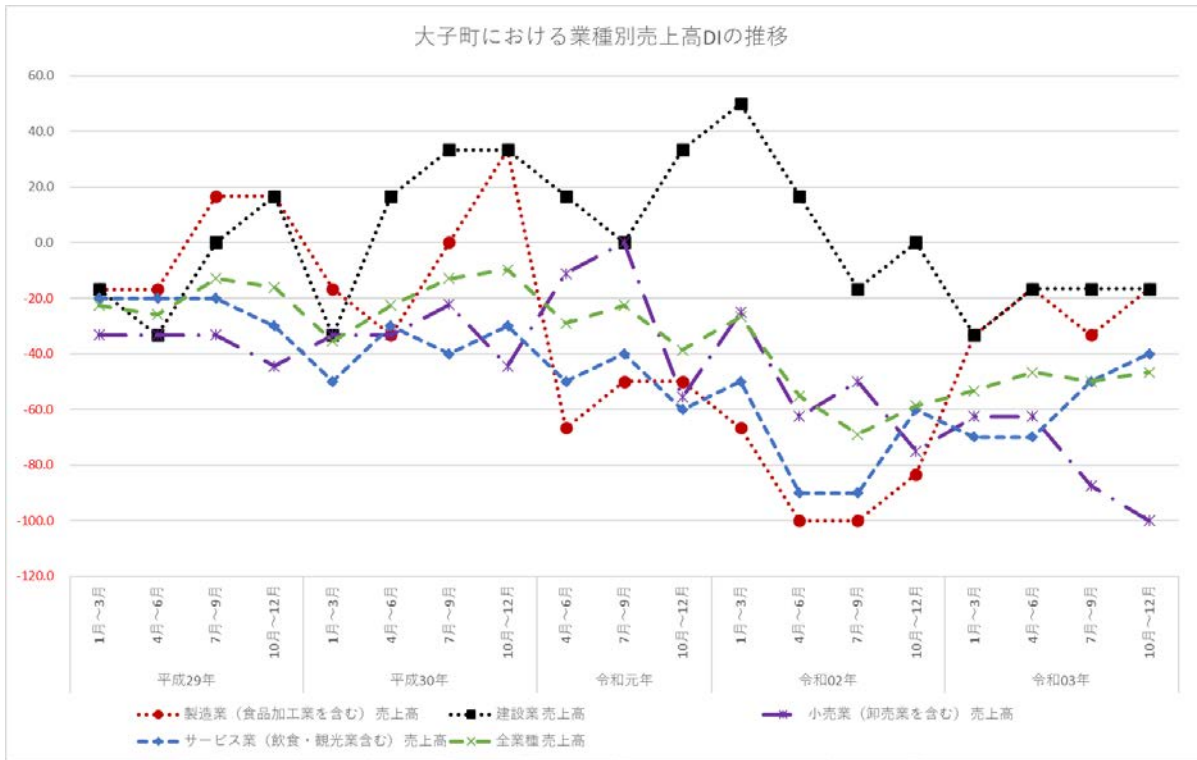


図2 大子町における業種別売上DIの推移

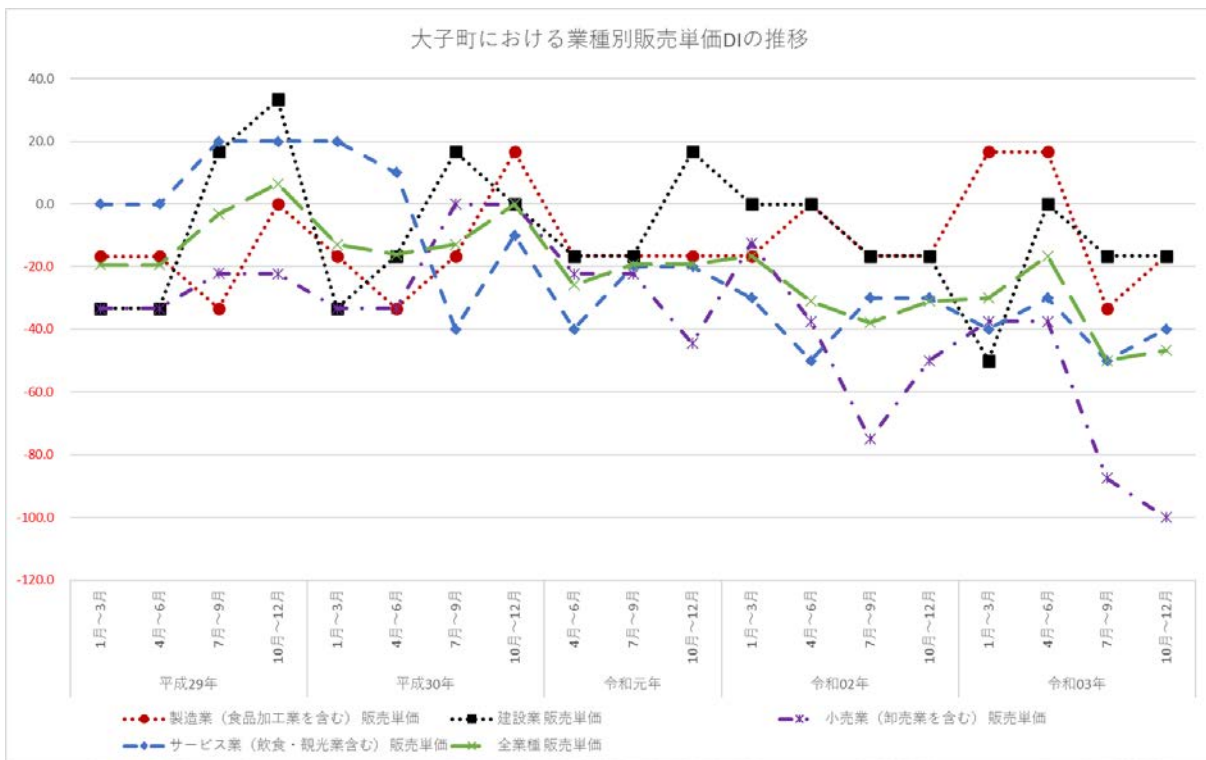


図3 大子町における業種別販売単価DIの推移

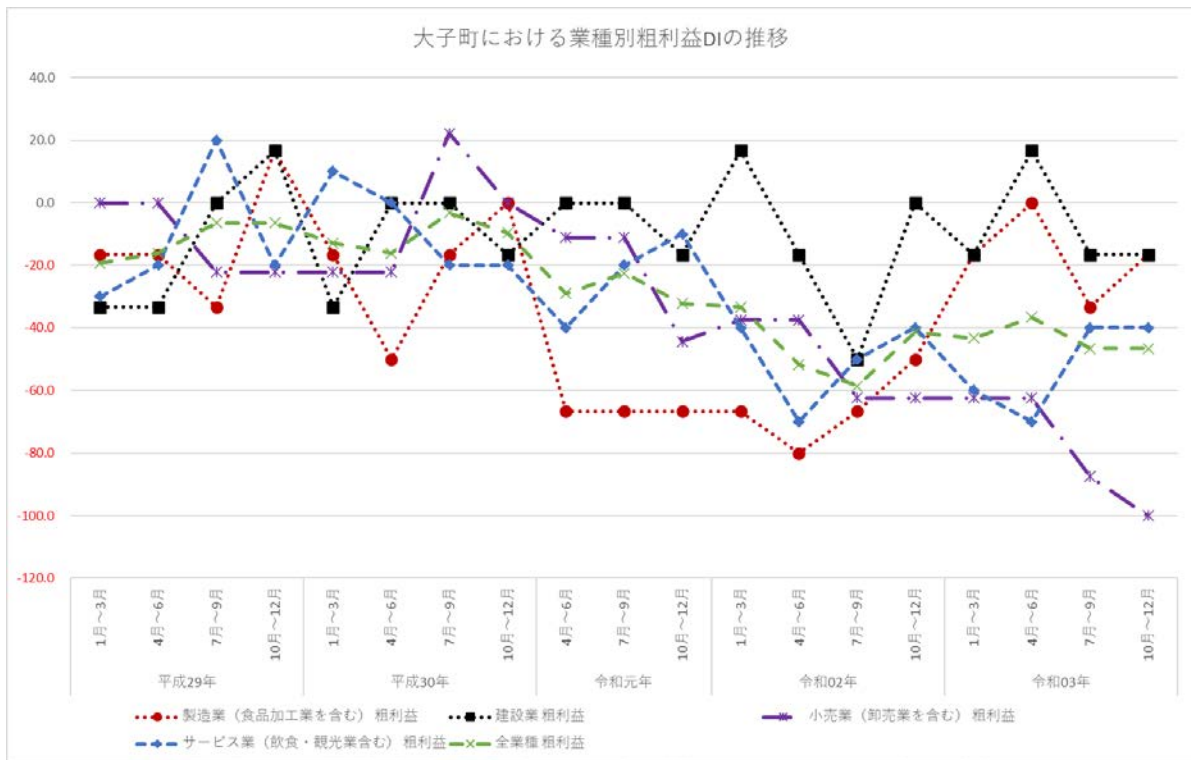


図4 太子町における業種別粗利益DIの推移

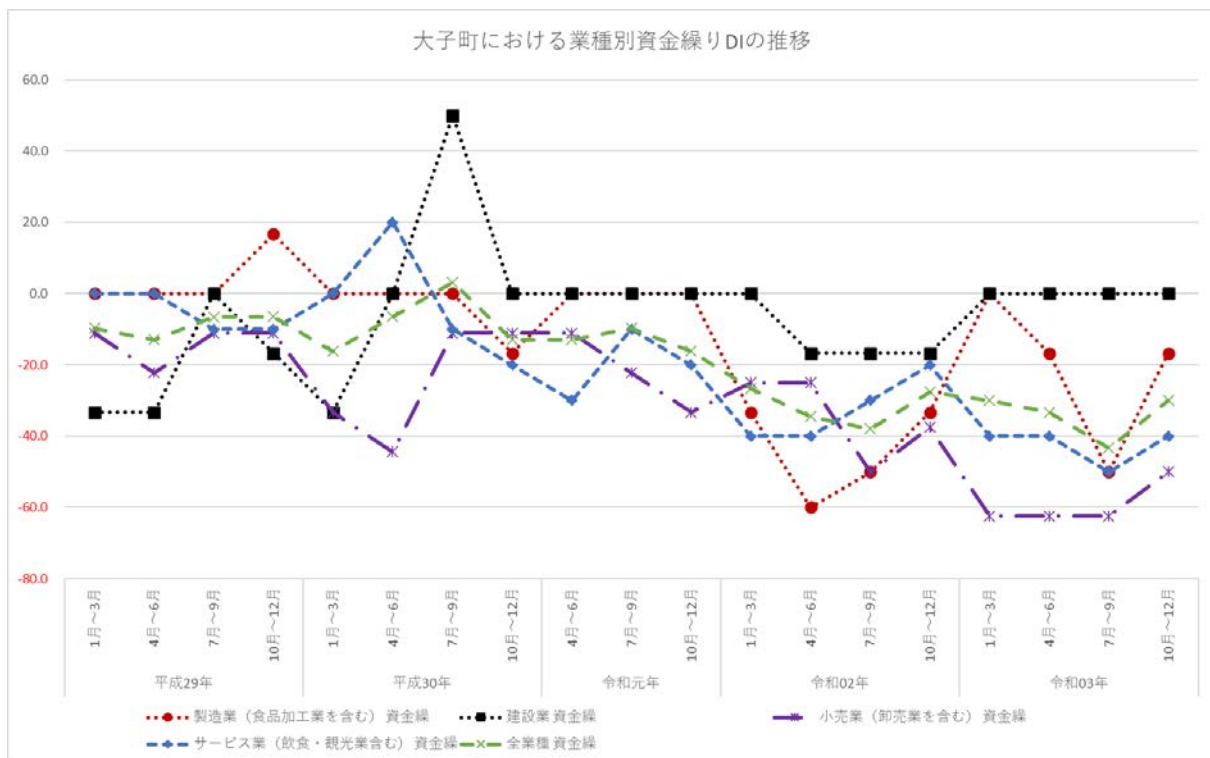


図5 太子町における業種別資金繰りDIの推移

図6は人材確保のD Iを示したものです。失業率とも関係しますが、景気が良くなると人材不足がおこり、景気が悪くなると人材過剰が起こります。中小企業とくに小規模企業の場合、景気が良くなると、確保ができなくなり問題点として噴出してきます。建築関連は人材確保が難しくなっており、サービス業や小売業ではなどではあまり変わらない、あるいは、採用する必要がないという傾向が強くなっていると思われます。

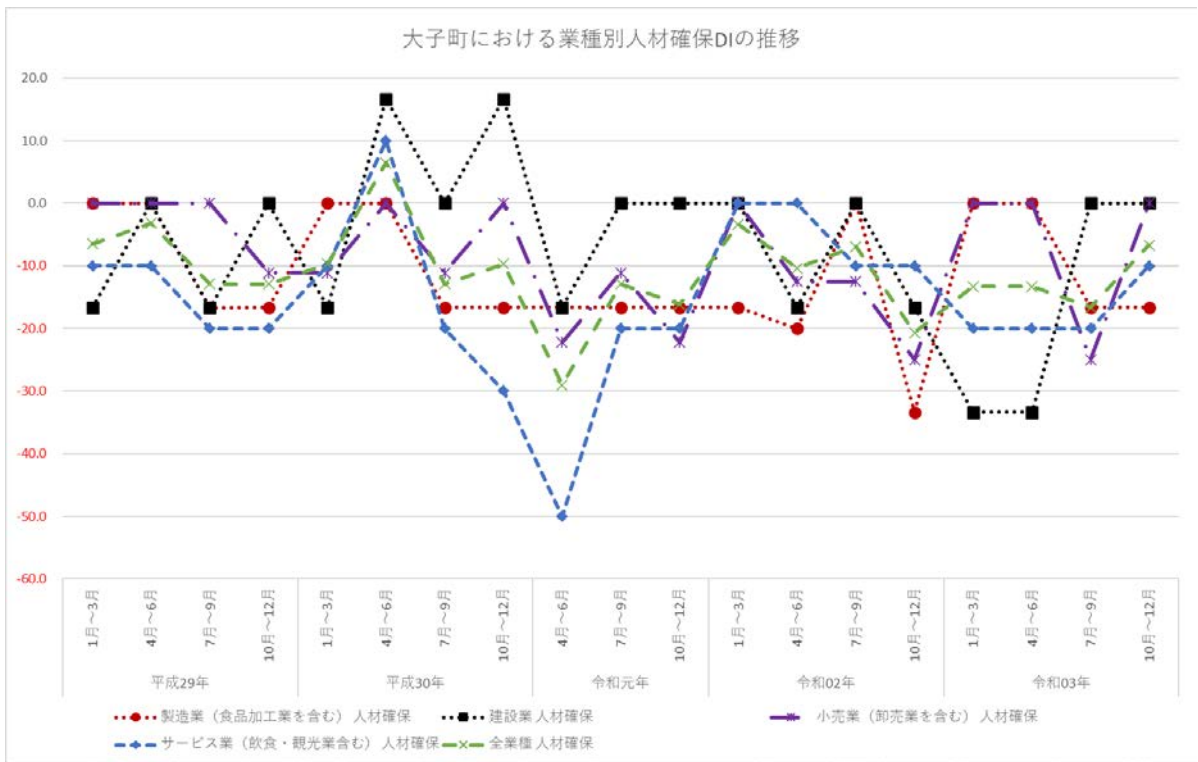


図6 大子町における人材確保D I の推移

図7は、景況感のD Iを示したものです。製造業と建設業、小売業とサービス業の二つに分かれたようです。製造業と建設業は回復傾向にあり、サービス業は底値推移、小売業は低下が止まらない状況になっています。

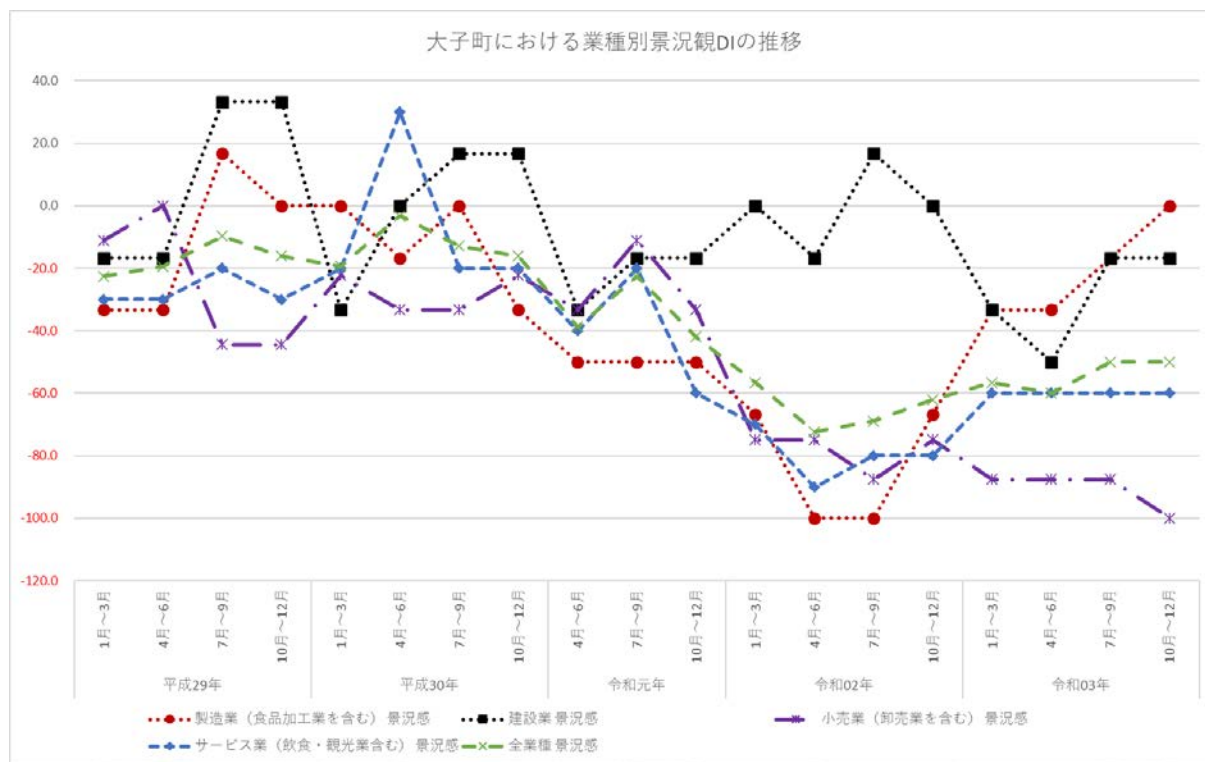


図7 大子町における景況感D I の推移

2. 新型コロナウイルス感染症の影響

図8では、令和3年6月期において給付金や協力金（補助金や助成金は除く）を利用したかどうかをたずねた結果に関しては、給付金や協力金を活用した方々は、全体の2割程度と徐々に収束しています。

図9では、給付金や協力金の効果に関して質問した結果に関しては、以前は「あまり効果がなかった」という意見がありましたが、今回はなかったようです。代わって、協力金や給付金を受け取った方は、「廃業しなくてすんだ」や「仕入の支払いができた」という「不満」から「感謝」に心の変化が見られます。

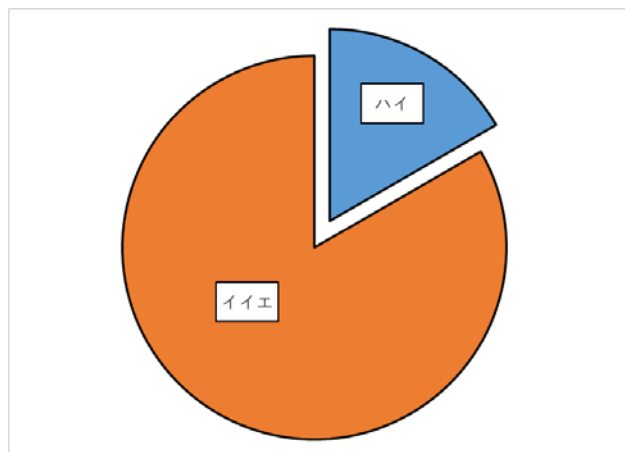


図8 給付金や協力金（助成金・補助金は除く）の活用有無

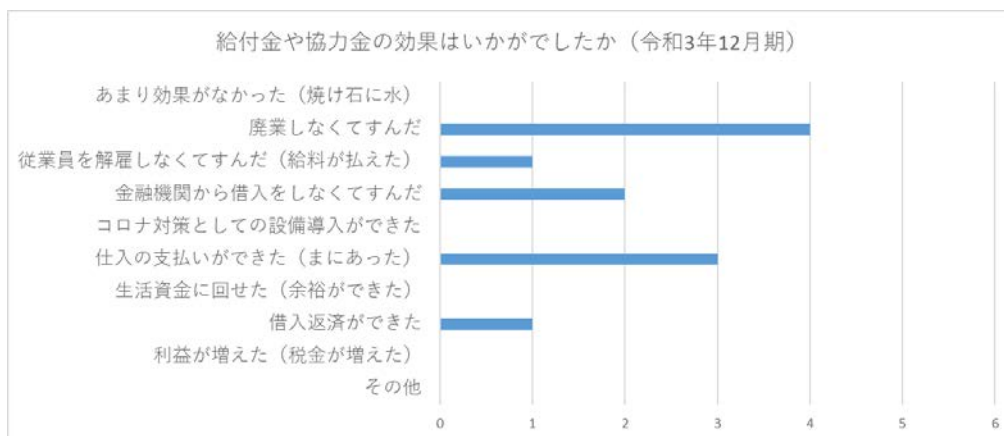


図9 給付金や協力金の効果（複数選択）

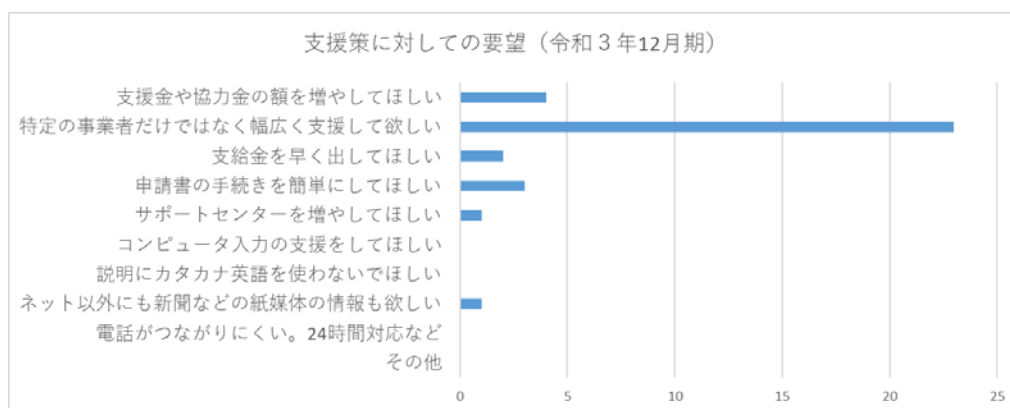


図 10 支援策に対する要望 (複数選択)

図 10 では、支援策に対するの更なる要望をまとめました。前回の報告と比較すると、注目すべきは、「特定の事業者だけではなく幅広く支援して欲しい」という項目が非常に多くなりました。理由は尋ねてはいませんが、不公平感を感じている方もいるのではないかと考えられます。例えば、飲食店などに支援が向いていて、小売店やその他のサービス業（たぶん、間接的な観光事業関連などと推測している）に対する支援がなかった点などに支援の偏りがあったために不満として現れていると思われる。

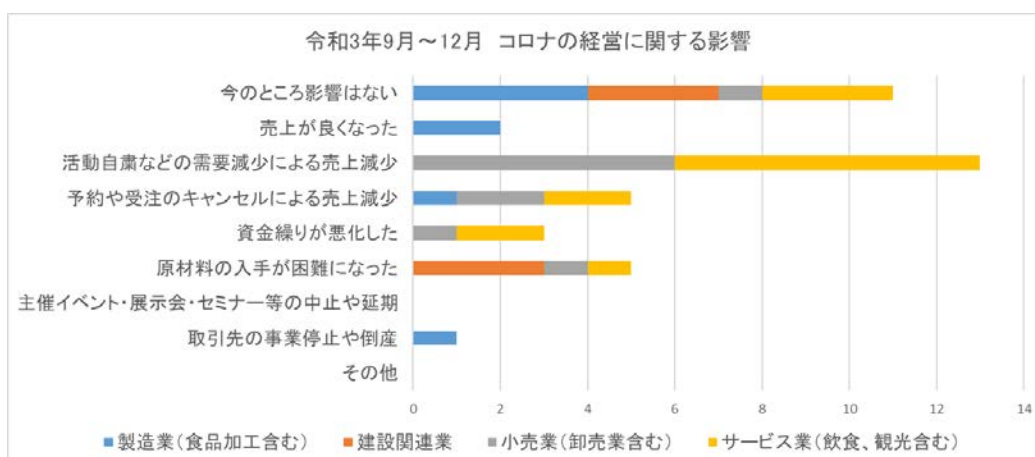


図 11 コロナの経営に関する影響 (複数選択)

- 図 11 では、業種別にコロナの影響を分析してみました。業種別にみると、
- ① 製造業は影響がなかった、売上が上がったという意見が多いようです。
 - ② 建設業は、影響がない、原材料の入手が困難になっています。
 - ③ 小売業は、活動自粛やキャンセルによる売上減少
 - ④ サービス業は、一部は影響がなく、それ以外は売上が減少しています (飲食店)。

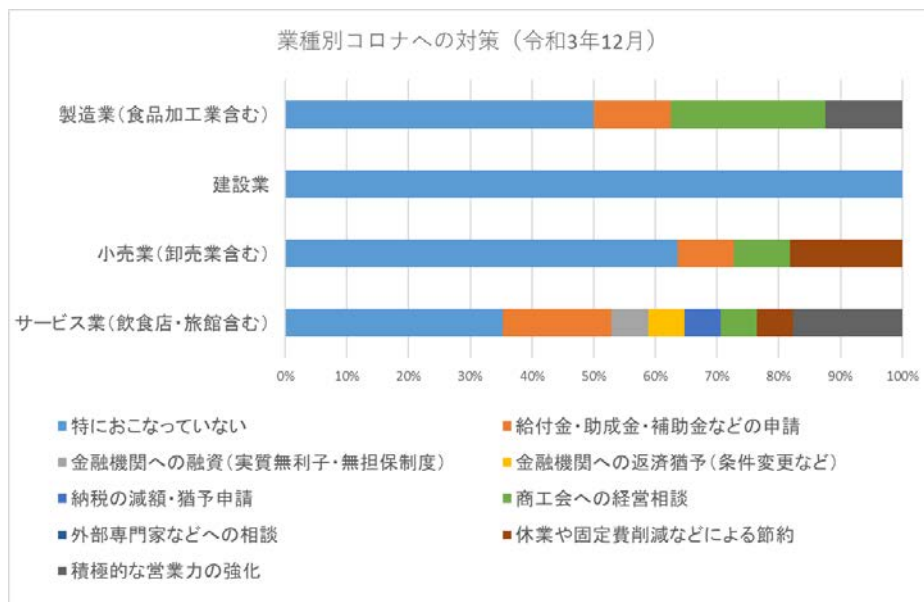
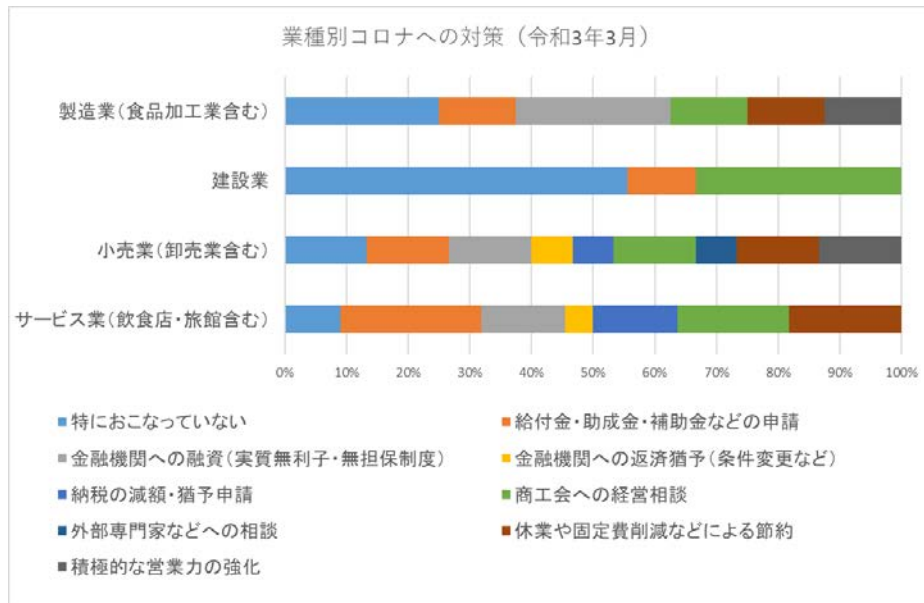


図 12 業種別コロナへの対策（複数選択）

図 12 では、業種別のコロナへの取り組みを 9 ヶ月前と比較しました。建設業では全社が「特に行っていない」という回答です。サービス業では、未だに様々な対策を行っています。製造業では、これを機会に積極的な営業力の強化も模索している事業者も見られます。全体的には、コロナの影響も弱まってきている、もしくは、慣れてきている、という傾向がみられます。